

## 従来の事業に加え、新たに「新価値創造事業」を展開 果敢なチャレンジでコロナ禍を生き延びる！

コロナ禍で紙器業界・関連業界全体の業績がマイナス傾向にあるなか、有功社シトー貿易(株) (谷口有三チーフディレクター・東京都新宿区新小川町5-1)は、本社の移転や配送センター(埼玉県川口市)の統合を図ることで固定費を下げると同時に、資材を軸とした印刷・紙器・段ボール関連の生産副資材、機器類の供給に加え、新たに『新価値創造事業』に力を入れ始めた。

新型コロナウイルス感染症に苦戦する医療現場での需要にむけた『どこでも発熱外来』から、大河ドラマで人気沸騰中の「渋沢栄一」の関連商品まで、東京・新宿区の新たな本社を訪ね、谷口チーフディレクターに機転を働かせた同社の商品展開について話をお聞きした。

### コロナ禍で始めた

### 『新価値創造事業』とは？

コロナ禍による業績の落ち込みが開始されたことで、従来の資材を軸とする事業展開に加え、新しい価値を創造する事業にも力を入れていこうと考えました。

基本は紙器段ボールに関わることで、新型コロナで受診する患者と医療従事者のことを考え昨年には、『どこでも発熱

外来』という段ボール製簡易型

診療ブースを提案しました。これは、医療従事者向けに開発された、段ボール製簡易型診療ブースです。新型コロナウイルスや他の感染症から飛沫・接触感染対策をしながら、多くの患者さんへの対応をすることができ、サイズも豊富で、広さに応じた設置が可能です。工具なしで組み立てることができ、不要になったら約3分でサッと解体できます。こちらはテレビ

### 感染を気にせずに問診・触診・聴診を可能にする 『どこでも発熱外来』



標準タイプ(患者・医師共に覆う)、立体タイプ(PCR検査向け)、コンパクトタイプ(患者のみ覆う)など、用途にあわせた7タイプを用意。現在300以上の医療機関と取引がある

<https://www.yct.co.jp/product/dokodemo-hatsunetsugairai.html>

のニュース番組で紹介され、医師会の応援によって広まり、300以上の医療機関に出荷することができました。

今まで当社では紙器段ボール会社をお客様としていたのですが、今回はさらに、紙器段ボール会社のお客様にこの『どこでも発熱外来』を作っていただけ

という経験をしました。つまり、従来のお客様を經由していただき、逆流ビジネスの形をとることになったのです。いわゆる「BoB」ですが、「Boユーザー」という形をとり、軸足をマーケットのほうにしようという考えです。



谷口チーフディレクター

机に置いたり壁にかけて使える  
『郷愁の王子電車』キャンバス



(写真は有功社シトー貿易 HP より)

サイズ：縦 204mm、幅 20mm、横 255mm。  
※『渋谷×北区 飛鳥山おみやげ館』でも販売

受注後 3 カ月でお届け  
『王子電車ディスプレイモデル』



(写真は有功社シトー貿易 HP より)

王子電車で渋沢栄一翁のイラストをあしらった  
『渋沢栄一翁に捧げるロシアケーキ』



現都電荒川線である  
「王子電車」のデザインがノスタルジック。  
味は 6 種類ある

※『渋谷×北区 飛鳥山おみやげ館』でも販売



LED 点灯仕様。渋沢栄一翁が当時住んでいた王子飛鳥山の光景が追想できる

価格：42,000 円（消費税 10% 込み・送料込み）  
／単三電池 3 本付

サイズ：全長 140mm、幅 30mm、高さ 48mm（ボール下げた状態）プレスボード製  
パッケージ：透明ディスプレイケース（プラスチック製）サイズ：全長 250mm、幅 65mm、高さ 75mm

<https://www.yct.co.jp/news/shibusawaproject/>

コロナ禍での生き残りをかけ、新価値創造製品の開発を進める

コロナ禍で生き残るために、ある友人の会社では、本業のほかにお菓子販売に重点を置いて事業展開をしています。その売り上げは、全体の 7 割にもなっているのだそうで、その影響もあり、弊社でもお菓子を売ろうと考えました。現在、北区の観光協会の応援もいただき、「渋沢栄一プロジェクト」が開始されています。

ひとつは、王子飛鳥山と弊社の名前を記載した王子電車のデザイン・パッケージに、職人による手作りのロシアケーキを詰めたものです。北区の観光協会に弊社が卸すという形をとっています。

実は、渋沢栄一と王子電車には深いつながりがあります。明治時代、東京の荒川区や北区一带は畑のある郊外でした。そこで、地元で鉄道の開通が試みられたのですが、日露戦争で資金を工面することが叶いませんでした。その後、渋沢栄一が飛鳥山に住み、資金を出して、「王子電車」が開通されたのです。現在放送されている大河ドラマの影響もあり、渋沢栄一に注目が集まっていることもあり、こ

のプロジェクトを始めました。

また、お菓子ではないのですが、当プロジェクトの第 2 の商品として、晩年を北区・王子で過ごした渋沢栄一が、自らの資金援助で開通させた王子電車を見守るイメージを描いたキャンバスを販売しています。当時の写真をもとにノスタルジックなタッチで仕上げました。

第 3 の商品は、受注生産のディスプレイ模型。1925 年導入の王子電車（400 型）で、ペーパーボード素材で作られ、塗装を施しています。実寸の 80 分の 1 の大きさにデザインされている。鉄道ファンならずとも郷愁に満ちた嬉しい商品です。

当社ではお菓子販売のみならず、「新価値製品」を目指していますが、あくまでも紙器段ボールを使ったビジネスに変わりはありません。

現在はインターネットの時代になり、ややもすると商社不要論というものでできていて、メーカーが自分たちで作って直接売るといふ仕組みができつつあります。そんな中で自分たちが何をやっていくことができるのか、今、問われているのだと思います。

これを機に「新価値創造事業」にも本腰を入れて取り組んで参ります。